

清水焼の白磁メダル 「第廿四回全国中等学校優勝野球大会」

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



写真1 調査で見つかった白磁メダル (実物大)

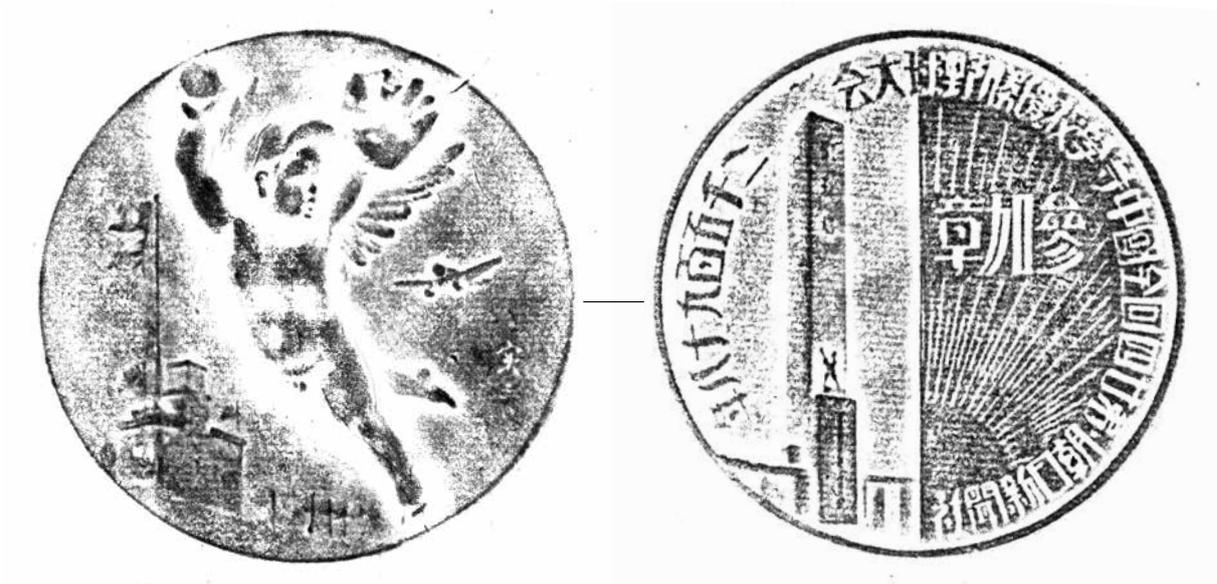


図1 調査以前に採集された同形メダルの拓影 浅見五郎助窯 提供

京焼・清水焼製造の中心地である五条坂で窯業が開始されるのは江戸時代前期です。以来、五条坂では焼き物の生産が続けられ、多くの登り窯が操業されていました。大正期には20基ほど存在していたようですが、昭和46年の京都府公

害防止条例の施行により登り窯による操業はできなくなりました。2018年に調査した浅見五郎助窯は、最近まで残っていた6基の京式登り窯の一つで、音羽・五条坂窯跡として遺跡に指定されています。明治時代の末には操業を始め

ており、昭和40年前後まで稼働していたようです。浅見五郎助窯の発掘調査で、窯体の残存部の現代層から1枚の白磁製のメダルを発見しました。寸法は径7.0cm、厚さ1.0cm、型作り成形で、表面と側面には白色の釉

が掛かっていますが、裏面は無釉です。「二千五百九十八年」と描かれた文字は、いわゆる皇紀のことで昭和13年(1938)にあたり、この年に開催された第24回全国中等学校優勝野球大会の参加記念メダルであることが分かりました。

メダルの表面には厚く釉が掛けられていたため、文様の詳細がはっきりしませんでした。そのため、表面中央に野球帽を被り、右手にボールをもち左手にグローブをはめた天使(キューピット)、天使の右側に飛行機が描かれていることは理解できましたが、左側に何が描かれているかは分かりませんでした。この第24回大会が行なわれた前年(1937年)に、本格的に日中戦争が開始されていたので、飛行機は戦闘機、左側に描かれたのは戦艦の艦橋ではないかと考えていました。

ところが、浅見五郎助氏所蔵資料の中に同形のメダルが存在していたことが明らかとなりました。釉を掛ける前の素地のため、文様をはっきり確認することができま

した。戦艦の艦橋と考えていたものは、野球大会が開催された甲子園のバックスクリーンが描かれることが分かりました。中央のポールには日章旗が翻り、下の方では主催者である朝日新聞社の社旗も確認されました。右側の端に不明文字の1字下に「三〇」と刻印が入っています。

裏面左側には野球塔が描かれています。この野球塔は、昭和9年(1934)に夏の大会が20周年を迎えたことを記念して、球場の北東部の松林に建てられたものです。第1回から第20回までの優勝校名と選手名が刻まれた銅版が飾られていました。右側に旭日の上には「参加章」、周縁に「第廿四回全国中等学校優勝野球大会 朝日新聞社 二千五百九十八年」と書かれています。

当初、参加メダルの文様については、「第廿四回全国中等学校優勝野球大会」が日中戦争のさなかに開催されたので、軍事色が色濃く反映されていると思っていました。そのため、表の文様を戦艦と戦闘

機と考えました。しかし、天使や背景の絵柄から平和を象徴しているように見られます。すると、飛行機の方も戦闘機でない可能性があります。では、何が描かれているのでしょうか、それは「神風号」ではないかと考えています。「神風号」は夏の野球大会の主催者である朝日新聞の所有で、前年にイギリスのジョージ6世の戴冠式を祝うため、東京からロンドンまで飛行しています。

2018年は、夏の全国高等(中等)野球大会が開始されて100回目となる記念の年でした。80年前に京都の窯で焼かれたこのメダルには、野球をする天使・甲子園のスコアボード・神風号が描かれています。戦時下ではありますが、「平和のもと、甲子園で全国中等学校野球大会を友好的に開催する」ことを願ったデザインではないかと思っています。

ちなみに、この第24回大会の優勝校は平安中学校(現・龍谷大学附属平安高等学校)でした。

(木下保明)



図2 音羽・五条坂窯跡



写真2 壊される前の浅見五郎助窯(北東から) 画像提供:立命館大学 木立雅朗氏